

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2990200046		
法人名	株式会社アップワード		
事業所名	大和高田グループホームまほろば		
所在地	奈良県大和高田市曾大根2丁目9番18号		
自己評価作成日	平成28年7月5日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所より3年が経ち、ご入居者様の状態等も日々変化が見られるなか、個々の想いを尊重し生活感のある日常を過ごすことを大切にしています。日々、変化に対応しながらできることは継続しておこなっていただきながら、外出や外食の機会を作り、「今」を楽しみ笑って生活していただけるよう支援しています。開所より変わらず、アットホームな雰囲気を中心とし、ご家族様、地域の方々と連携をとれるホームを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人本部を大阪に置き介護事業所を展開している法人が、奈良県への事業所進出は法人経営のエネルギーを感じさせる。法人母体が調剤薬局であり、系列グループホームの利用者の服薬管理を薬剤師が把握し、常に連絡、相談できる体制ができている。利用者から飛行機を見たいという希望があり、車で空港まで出かけるなど、管理者と職員が一体となって、利用者の思いを聞き、その日の予定を柔軟に組み替えてでも、利用者本位の生活を送ってもらうという思いを実践している。また災害等非常時に地域住民と相互の協力が必要と考え協力体制を築こうとしている。今後が期待できる事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 [//www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2990200046-00&PrefCd=29&Version](http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2990200046-00&PrefCd=29&Version)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成28年7月21日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+Enter)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
ho-mu					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の想いを尊重し、地域の中で笑って暮らせるお家を目標に日々共有しています。	事業所の理念は「一人ひとり」の想いを尊重します。住み慣れた地域の安心できる場所で自分らしく笑ってすごせるお家をめざします」と掲げ、職員は利用者の笑顔が大切と、アットホームな雰囲気作りを目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の定期的な訪問や近隣の祭りへの参加、地域の保育園児達との交流など楽しんでいます。	事業所開設時より地域の夏祭りに参加し、秋には子供だんじりの休憩場所として事業所前広場を提供し、賑やかな祭りを楽しんでいる。春・秋には地域の保育園児の訪問を受けて利用者との交流を行っている。定期的なボランティアの訪問もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方の会議で、グループホームについて、施設についてのお話をさせていただき、地域の方へ認知症という病気を理解していただきました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事・活動・入居者様の生活状況の報告を行い意見をいただいています。	運営推進会議は民生委員、市担当職員、地域包括支援センター職員や利用者も参加して、2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の現況報告や行事の結果や予定を報告し、事故報告を行い対処についての意見を聴いたりしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの方や、介護保険課の方に参加していただき、報告・情報交換を行っています。	市や地域包括支援センターへ事業所の現状を伝えたり、緊急の入居受け入れにも対応するなど、連携を密にしている。地域包括支援センターの事例検討会や研修情報を得て積極的に参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会によるアンケートや内部研修などを通し職員の意識づけを行っています。	身体拘束をしないケアについては職員研修を行い共有を図っている。食事は車いすから食事用いすに移乗し、エプロンをしないようにしている。処方薬の服薬に関係する日常的な利用者の反応を観察記録し、医師や薬剤師へも報告している。	向精神薬も拘束につながる事を意識して、副作用をおさえる減薬を図ろうと医師や看護師と連携するなど身体拘束を理解しているが、ベッド四点柵や車いすの安全ベルトの使用について、もう一度職員全体で話し合い、身体拘束による弊害を理解することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会による研修も行っていきます。職員間で周知理解を深めています。また、管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを図り、状況の把握に努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、施設にて資料の回覧など職員の理解に努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等は家族様に説明を行い、質問にもお答えしご理解頂ける様努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アットホームな雰囲気面で面会時にはお声を掛けさせて頂き、ご意見ご要望を話しやすい環境に努めています。家族様へ外部評価の結果をお渡しし、家族会においても外部評価について説明を行いました。	意見や要望は日頃から利用者や家族の面会時に聴いている。また、家族へは毎月行事の写真や利用者の様子を一言付きの手書き文を入れて送ったり、利用者や家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、職員の意見を主任や管理者が聞ける環境を作っている。サービス向上委員会においても、利用者様だけでなく、職員の意見についても話し合っている。	代表者・管理者は月1回の全体会議で、主任や職員と運営や業務改善等を話し合っている。サービス向上委員会においても活発に意見交換や提案がなされており、職員の意見や要望に管理者の対応が早く職務の励みとなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況・職員個々の実績や努力を把握し働きやすい職場環境を整備できるように努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、職員の知識や技術の向上に繋がる様に努めています。内部でも各委員会による研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などへ参加し、交流する機会を得て、意見や情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わることによる心身の負担を最低限に抑えられるように面談に伺いお話しをし、安心してご入居頂けるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学・ご相談の際より話しやすい雰囲気作りに努めご家族様の思い、不安など受け止め、不安が無いように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望やケアの方向性を話し合い、状況に応じて必要なサービスの情報提供を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人のペースにあわせ、自分らしく暮らしの継続が行える様に支援しています。一緒に家事を行ったり、買い物に行き、日常生活を共に過ごしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間にこだわらず、ご来訪していただきやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人の日々の様子など話せる関係作りをしています。行事にも参加いただき入居者様と楽しい時間を過ごしていただける様に努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の面会者にも来訪しやすい雰囲気作りを心がけています。	友人の面会を受けて、お茶の接待を希望される方や、盆暮れや収穫時の自宅行事に帰られる方もいる。思い出の高取町のひな祭りに参加したり、懐かしい檀原の今井町へ出かける支援もしている。近くの神社への初詣の行事も大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間関係も様々ですが、職員が仲介役として良好な人間関係が築けるよう努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、再入居をご希望される状況も踏まえ、居室の空状況など声かけさせていただき、変わらない関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの希望や思いを日々会話等から聞いたり、気づけるように努め、個々の楽しみをプランに入れたケアを考えています。困難な場合は、ご家族様とも相談し考えています。	利用者の希望を日頃から丁寧に聴き取り、迅速に意向に添うように対応している。サービス向上委員会が利用者から希望などを聴き取り、個人ファイルへ記録し、ケアプラン作成に反映できるようにもしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人・ご家族様・各サービス事業所から情報収集を行い、職員間で情報共有に努めています。入居後も、ご本人・家族様との会話を通じて情報収集しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア記録から状態の把握に努め、定期的にケアカンファレンスを行い確認しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング・ケアカンファレンスを行い、職員・かかりつけ医などと話し合い計画に反映するように努めています。	利用者の生活の質の向上の為に利用者職員が話し合い、医師の意見も参考にケアマネジャーがケアプランを作成している。家族へはプランの説明を行い、意見を聴いている。3ヶ月ごとにケアカンファレンスとモニタリングを行っている。	利用者本位のケアプランを心がけて実践しているが、ケアプラン作成前のケアカンファレンスに家族も参加してもらい、意見や要望を聴きケアプランに反映さす取り組みが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し日々の様子やケアの実践等記録し、職員間での共有を図り3ヶ月ごとの介護計画の見直しを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別のサービスが行えるように管理者・計画作成担当者・ケア職員との連携を図り努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日近隣スーパーへ車で買い物に出かけている。ボランティアの方に来ていただき地域の交流を楽しんでいる。行事では、近隣の大型スーパーにウィンドショッピングに出かけています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が毎週あり1階2階と隔週で診てもらっている。必要に応じ、希望する医療機関の受診・入院等の支援を行っています。	毎週協力医師の往診がある。また、利用者の急変時には24時間体制で医師の指示を受ける体制ができている。歯科医の往診もある。家族の付き添いで以前からのかかりつけ医へ受診する方もあり、急変時には職員が付き添い受診することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しています。日々の健康管理・異常の早期発見に努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を図り面会が重ね、入居者が安心して療養できるよう努めています。往診医も含め退院後のホームでの生活を検討しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には「看取りに関する指針」と「同意書」を3部作成し、家族様・往診医・ホームで持ち連携をとり看取りケアに対応しています。	終末期ケアが必要となった時点で、家族に「看取りに関する指針」を説明し、同意書を交わしている。看取りのケアは医師・看護師・家族と職員が密に連携を取りながら行っている。夜間は、本人が「苦しくなく、寂しくないよう」に心をかけ管理者や常勤職員が付き添い、職員全員が自然体で臨んでいる。開設以来3年間で4名の方の看取りを経験した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで職員が周知できる様その都度おこなっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防の立会い・自主訓練にて避難訓練を実施しています。夜間を想定した訓練を実施し、火災・災害に応じ昼夜を問わずスムーズに避難できるように努めています。運営推進会議等でも災害について話し、地域との連携も図れるようにしています。	年2回避難訓練を行い、内1回は夜間想定訓練を実施している。緊急時に消防署へ通報した段階で運動して出入り口が開錠する仕組みになっている。災害発生時に地域住民の協力要請をすると共に、地域住民の避難所として事業所が受け入れ体制をとり、飲料水や食料を備蓄している。	非常時避難訓練などは適宜に実施されているが、全職員の役割分担を決め的確に行動できるように「緊急時マニュアル」を作成し、全職員が共有することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行う会議にて職員が常に意識を持つ様に努めています。個々の意思を優先したケアを支援しています。	利用者の尊厳を守る取り組みを、職員全体会議で話し合っている。トイレ誘導時にはさり気なく誘い強制はしないようにしている。居室への入室時はノックと声かけをしてから入るようにしている。希望に添って同性介助や名前の呼び方も柔軟に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に会話を持つ様にしご本人の思いや、要望を確認出来る様努めています。意思表示が困難な方へは表情・言動・行動で理解出来る様努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう個々のペースにあわせ対応するように心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に来て頂き、個人の希望に沿ってお願いしています。今までの生活を継続するため毛染めやパーマなども行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様のご要望を聞いたり、個々に沿った調理の内容も工夫しています。新メニューも取り入れ、職員と一緒に準備し食事を楽しみ、後片付けをしています。	「食事が一番楽しい」と利用者も職員も意識しており、本部より届く献立表が利用者の希望で変更することもある。職員と利用者が当番で食材を買いに行き、調理や後片付けも一緒に行い食事を楽しんでいる。事業所の畑でとれた野菜などが食卓上がることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた量を提供し、食事量・水分量の記録をつけ把握する様にしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、付き添いを行っています。必要な時は、歯科往診に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し定期的に声かけや介助を行い、失敗を減らす様にはしています。出来る限りオムツに頼らずトイレにて排泄出来る様努めています。	排泄チェック表を把握しながらも、定時の誘導をしないで、自発的に排泄の意思表示ができるまで待ち、自立度の向上を目指している。オムツ使用者は2名で、大部分は布パンツや紙パンツ使用である。トイレ誘導を拒否する方は、移動時に工夫しながらタイミングよく声掛けをし誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便を記録し把握、水分補給を促し、便秘の改善に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日、夕方から入浴して頂いています。個々の体調や気分に合わせて個別にゆっくりと入浴して頂いています。季節に応じてゆず湯等楽しんで頂いています。	入浴時間は毎日15時から18時頃まで入浴が可能で、毎日くじ引きで入浴の順番を決めるなど、入浴が楽しくなる工夫をしており、ゆっくりとした気分で入ってもらえる支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休憩して頂き、就寝時間も個々に合わせて入眠して頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を綴り、職員が周知し内用を把握できる様に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活リズムを整え、個々に合った役割を職員と一緒にしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・遠足などに出かけたり、外食や買い物に行く機会を多く持つ様にしています。個々のご要望を出来る限り支援できる出来る様努めています。ご家族様との外出も自由に出掛けて頂いています。	日常的に食材を買いにスーパーへ行ったり、本屋やDVDレンタルショップなどへ出かけている。利用者が行きたい所の希望があれば即座に計画し、季節の花見など見ごろに合わせて対応し出かけている。玄関先で体操をしたり、夕涼みを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族様に管理をして頂いています。ホームでは小口をお預かりし管理し外出の際、職員見守りを行い支払い等も行って頂いたりします。ご希望により小額ですが所持されている方もおられます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればホームの電話を使用して頂いています。ご家族様の電話を取り次いたり、郵便の受け取りなども支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングにソファやテレビを置き、利用者同士の距離感にも配慮し、ゆっくりとくつろげる雰囲気にも努めています。大きな窓から外を見たり壁に飾りつけをし季節感を感じられるように努めています。トイレも2部屋の間に1つ配置し、どこでも利用できるようになっています。	食堂・居間は大きな窓が多くあり明るく、季節感のある飾り付けも上品である。利用者がくつろぐ場所が、居室やトイレに近くトイレは2居室ごとの間に1つ設置されており安心感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごす時間の中で気の合った方同士の席の配置やソファを置き配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にエアコン・チェス・ベット・布団・洗面所が備えてあり、個々の希望に合わせて、テレビやタンスなど持ち込まれています。配置も個々の希望に合わせています。	居室にはベッド、寝具、エアコン、洗面台、チェストが備え付けられている。利用者が使い慣れたソファや家具が持ち込まれ置かれている。季節ごとの衣類の入れ替えに家族の方がこられた時は職員も一緒に手伝っている。事業所の物入れも提供して、どの居室もすっきり整頓し居心地が良さそうである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心にそれぞれが出来る事を行なって頂き自立支援をしています。廊下には手すりの配置や各場所には表示や居室には表札を揚げわかりやすくしています。		